

## 会 議 録

内容承認	公開・ 非公開	＜開催日＞平成 31 年 3 月 26 日（火）	＜傍聴人数＞ 0 名
米澤会長		＜時 間＞14:00～15:50	＜傍聴室＞
松山委員 山本委員		＜場 所＞岸和田市職員会館 2 階 大会議室	岸和田市職員会館 2 階 大会議室
承認	公開		

＜名称＞ 第 17 回（平成 30 年度第 4 回）岸和田市子ども・子育て会議

＜出席者＞

（岸和田市子ども・子育て会議委員出欠状況）○は出席、■は欠席

梅崎	江龍	近江	岡野	奥	阪口	篠本	寺田	中川 <sup>(勉)</sup>
○	○	■	○	○	○	○	○	○
中川 <sup>(麗)</sup>	新田	松山	撫養	森下	藪	山本	米澤	
○	○	○	○	○	○	○	○	

（事務局）

山本子育て応援部長、藤原教育総務部長、谷学校教育部長、濱上生涯学習部長、濱崎健康推進課長、永島子育て支援課長、宮内子育て給付課長、池宮子育て施設課長、山田教育総務部総務課長、他

＜議題等＞

- 1 開会
- 2 議題
  - （1）来年度の子ども・子育て会議の日程
  - （2）アンケート調査の概要
  - （3）アンケート調査結果（就学前・小学生・チビッコホーム）
  - （4）その他

<概要>

- 事務局開会挨拶
- 議題（１）について事務局から説明
- 議題（２）について事務局から説明
- 議題（３）について事務局から説明
- 事務局の説明を受け、質疑・意見交換
- 議題（４）について事務局から説明
- 事務局の説明を受け、質疑・意見交換

■意見交換（概要）

【議 長】

それでは次第に従って、議事を進めてまいりたいと思います。（１）来年度の子ども・子育て会議の日程、（２）アンケート調査の概要、及び（３）アンケート調査結果（就学前・小学生・チビッコホーム）について、事務局より説明をいただきます。委員の皆様方からの質問は、議題（１）から（３）の説明後一括してお受けしたいと思います。よろしくお願いします。

（議題（１）について事務局説明）

（議題（２）について事務局説明）

（議題（３）について事務局説明）

【議 長】

ありがとうございました。ただいま事務局の方から議題の（１）（２）（３）まとめて説明をいただきました。ではここからは委員の皆様方にご質問・ご意見を賜わっていきたいと思います。ご意見・ご質問のある委員の皆さんは挙手の上、ご指名させていただきますので、ご発言お願いします。いかがでしょうか。

【委 員】

何点か確認したい。何をどんなふうに見たらいいのか、何を質問したらいいのかというところがあるのですけれども、P32の「他市町村」というところですが、これは岸和田市から他市町村に行っている人達ですよね。この7.9パーセントというのは、多いのか少ないのかイマイチはっきりしません。どのように比べればいいのか。要するに、他市との違いが分かるような何かはあるのですか。例えば、岸和田市の中の7.9パーセントが他市町村に通っているとなると、逆に隣の市は何パーセントあるのだとか。7.9パーセントがたくさんいるのか、少ししかいないのか、分からない。岸和田市は、結構たくさんの方が、市内に施設があるのに他市町村に行っていると良く聞きます。それは何故かと時々思います。この数字が多いのか少

ないのか、どうやって比べるのか。逆に、他市町村から岸和田市を利用しているのが分かる方法はあるのですか。

【議 長】

今の点はどうですか。

【事務局】

子育て施設課よりお答えいたします。当課では他市の認可施設のうち保育所、認定こども園、小規模保育事業所の利用について把握しています。それ以外の施設については他の部署が所管する施設を除き把握できていません。

【議 長】

その数字は分かるのですか。

【事務局】

今日はその数字はお持ちしておりません。

【議 長】

先程、委員がお尋ねになった、他市のデータで他の市町村に行っているものと比べられるのかということはいかがですか。他市に行っている方が、岸和田市と比較して多いのか少ないのかということはいかがですか。

【事務局】

同じ調査を、府を通じて行うことになっていますが、同時進行と言いますかどちらかと言うと本市が少し早かった状況です。泉南地域の近隣市と比較すると早い方になります。他市はまだアンケート調査の結果が見えていないところがあります。出ましたら、参考にさせていただけるものがあればお示ししたいと思います。

【議 長】

では残りの質問をお願いします。

【委 員】

今後、量の確保策に入っていきますが、このアンケート調査で量がどれだけ足りていて足りていないのかが分かりにくい。何か比較できるポイントがあるのか。個人的に思うのは、30ページの現在利用している部分と、今後利用したいという41ページの部分の数字を比較すれば分かりやすいのではないかと。どこに今後確保していくのかというところが、この表ではどこをポイントに見ていけば分かりやすいの

かがあれば、教えてください。

【事務局】

次の5月の子ども・子育て会議で量の見込み案としてお示しする予定ですが、量の見込みの設定の際に使用する手引きがあります。国基準のものと、独自の案も2つ提示する予定です。その際には、委員がおっしゃった30ページと41ページの数字をどのような反映の仕方をしているのかも含めた形にしたいと思っています。今のご質問に即答できていない部分もあるかと思いますが、各委員からの意見用紙の回答も含めてさせていただきますので、本日のところはこのような回答になります。

【議長】

よろしいでしょうか。

【委員】

ありがとうございます。あと2点あるのですが、よろしいですか。先程も説明にあった52ページと53ページで「利用したくない」や「知らない」と、せっかく施設があるのに上手く周知できていない部分があるというお話でした。それに対する今後の策はあるのか。私は岸和田市の人間ではありませんが、例えば①と②の赤ちゃんサロン、子育てサロンはすごく知っているのに、公民館や青少年会館の家庭教育学級・サークルはあまり知らないとか、「利用したことがない」となっています。私個人の意見ですが、家庭教育学級というのはネーミングが古臭いので、ピンとこない。イメージに結び付かないので、そのあたりの周知を考えていく必要があると思います。これは意見です。

あともう1つ意見です。先程のチビッコホームのところで、朝の時間を早めて欲しいというところがありました。朝早く預かるという配慮はあるのですか。朝はやっていないのですか。

【事務局】

土曜日や学校が長期休暇の時は、8時30分から開設しています。

【委員】

平日の朝早くという希望がここに出ているのであれば、それはどうなのですか。早朝というのは方向性的にはあるのでしょうか。岸和田市として考えておられるのですか。

【議長】

これはいかがですか。

【事務局】

平日とおっしゃるのは、基本的にチビッコホームは放課後という概念ですので、学校終了後の放課後にお預かりする事業です。土曜日と長期休業期間中は、学校はありませんが、お預かりさせていただいています。その時点で朝8時30分からの開設ということになっております。

【委員】

ありがとうございます。放課後児童クラブという名前が付いているので、就業前には今後ならないというような形ですね。

【事務局】

はい。

【委員】

以上です。ありがとうございます。

【議長】

他にどうでしょうか。

【委員】

確保方策は次回案を出すということでしたが、先程の44、45ページは恐らく利用者の満足度を測っている率になると思います。5年間子ども・子育て会議で計画を立てて施設をたくさん作ってきて、今回10パーセントくらい利用者が行きたいところに行けるようになったということです。5年で10パーセントなので、今後はあとどこまで伸びるのかということになると思います。前からずっと言っていますけれども、その地域に必要な施設がどれくらいいるのですか、という議論をさせてもらっています。その地域にその保育施設なり幼稚園施設なり、あとチビッコホームの施設ができればいいのだけでも、それができないからやむなく違うエリアに預けに行かざるを得ないという実態は、まだここに残っていると思います。前回の5年間は、利用者を増やして子どもと親の支援をしようということで、とりあえず量を増やそうという議論をしてきたと思います。2期目になると、今度は利用したいというニーズを増やしていくことになると思うので、計画案として5年間でどれくらい増やすのかという国の基準と市の基準を使って、何個増やしていこうということを出してもらうのは良いのですが、利用者が本当に行きたい場所に作ったならば、どういう計画になっていわゆる本当に岸和田市がやろうとしている計画と希

望める計画と、どれくらい差があるのかを知りたいと思っています。各地域に割り振った時に、上手く待機児童がなくなる計画というのはどれくらいの利用者があって、でもそこに場所がないという議論になると思います。建てる場所がないとか、施設がどうしても作れないとか、そんなことがあるのだらうと思うのですけれども、やっぱり利用者が満足する計画を目指すことが当然市としての役目だし、この会議の委員が考えるべきことだと思います。形だけでは良くて、利用者が満足してその施設を利用することを考えていくべきだと思います。そこは計画に盛り込んでいく必要性があります。

もう一つ、前から言っていた在宅率の話です。3歳が多いということは10何パーセントですかね、いるということは待機児童がその分教育を受けてないということなのか、今回のところでどう見るかというところがちょっと分からなくて、今ここで利用者のところのアンケートで見たらいいのですかね。3歳の施設が足りているのか足りていないのか、利用意向がくみ取れているのかどうかを知りたい。0・1・2歳は多いというイメージは当然ありますが、3歳はこれから、岸和田市として10園始めてもらっています。幼稚園として。それ以上増やさないというのが今の計画だけれども、実際足りているのか足りていないのか、今後の計画の中で出てくるのか。後で説明する資料というのがあるみたいですが、4・5歳の量を減らすみたいですけど、3歳のところを0・1・2歳で頑張っている民間保育園と小規模保育と繋ぐ3歳の入り口についての計画も、今後5年間で見出していくべきところだと思います。3歳児の受入れを幼稚園とするのか、それとも保育所とするのかをきちんと計画に盛り込めると良いと思うので、素案として出してもらえるのが有難いと思っています。この2点です。

【議 長】

貴重なご意見だと思います。2点目のご意見の、3歳のニーズがどうなのかが分かる資料はあるのですか。

【事務局】

44、45ページの「一番利用したい施設・サービスを利用できているか」という部分の45ページの3歳の77.5パーセントが「できている」、「できていない」が19.4パーセントの部分になろうかと思っています。

【議 長】

利用者満足の視点は非常に大事だと思います。次回の案件に含めていただきたいと思っています。

他どうでしょうか。

【委員】

大変たくさんのお情報をまとめていただき、ありがとうございます。非常に参考になると思います。14ページの「気軽に相談できる相手・場所」で「インターネットの交流サイト」とかネットの情報を参考にするというのが特になくには違和感がありました。そのあたりのデータの取り方がまずかったのではないか。何の情報を参考にされますかとか、「相談」と書いてしまっているのが、3番目の「友人や知人」というのは、ほとんどがネット上の友人ということもあるかもしれない。

【議長】

その点いかがでしょうか。

【事務局】

ご意見ありがとうございます、確かに、保護者にすれば「気軽に相談できる相手」と言われると、インターネットを通じた友人や知人という部分もあるかもしれませんが、ここは決められている項目なのですが、「手段」という部分でも突っ込んで聞けたかとは思っています。

【議長】

相談と言うと、情報を入手するということでの使い分けがあるとは思っています。他にはどうでしょうか。

【委員】

子育て支援サービスに比較が、53、54ページ辺りに、前回調査と今回調査の比較が2本立てになっていますが、53ページの下の方の図の②③が前回よりも「知らない」という人が、特に②なんかは「公民館、青少年会館、家庭教育学級、サークル」辺りが、10パーセント「知らない」があがっている。これがなぜかということと、③もそうなのです。これだけ色々施策をしているのに、「知らない」人が増えているのは何故かということは、今後のところで検討していかないとはいけなく、する必要があるのではないか。その他もそんなに数字は変わっていないので、何故かということを検討材料にして、改善していく必要があるのではないかと思います。後にもそんなに変わっていないのかなと比較を見たところ、そんなに数字は変わっていないので、何故こうなのか、ということを検討材料にして改善していかなくてはならないと思いました。

【議長】

貴重なご意見ありがとうございます。認知度が下がっている部分について、担当部署で思い当たる節はあるのですか。

【事務局】

これからの宿題としてお預かりして検討していきたいと思います。

【議 長】

他にはどうでしょうか。

【委 員】

2ページです。放課後児童クラブ（チビッコホーム）アンケート調査で、調査方法が前は小学校を通じて配布・回収でしたが、今回は郵送配布でした。これで前回と今回の回収結果のパーセンテージがかなり違う。低学年については19ポイントも違うようになってしまっているので、これについてどうお考えなのか確認したい。

【議 長】

その点はいかがでしょう。

【事務局】

前は小学校の校長をはじめ先生方にご協力いただき、1年生から6年生までの全児童に配布して学校を通じて回収しました。今回は郵送で、まず手段が違うということと、確かにご指摘いただいているとおり、低学年については19.6ポイント、高学年についても10ポイント下がっています。先程説明の中でもありました。間で督促状兼お礼状の発送等、学校の方にもご協力いただきポスターを貼らせていただき、できるところはさせていただいた結果になります。数字が低いという部分については、調査票が書きにくい、分かりにくい部分があったことは受け止めたいと思います。回収手段が違いますので、前は先生方にご協力いただいて回収率がすごく高かった。今回、50パーセントというのが、就学前と小学生とを比較しても低くはなっていますが、半分は返ってきたというところと、小学生のご兄弟にも回答をいただいていますので回収率については変わっていませんが、件数としては370件程プラスされていることになります。

【委 員】

サンプル数が前回と全然違いますよね。

【事務局】

前々回もお話しさせていただきましたが、抽出は3割を目安に6圏域の各小学校区に分けて、件数として総数は3,240を小学生は抽出しました。就学前は2,880

件です。全件とそこから3割というところで、総数は違ってきます。

【議 長】

やり方を同じにして就学前アンケートと比較すると少し低めですが、各段低いというわけではない、回収率がチビッコだけ他と比べて低いというわけではないという説明があったと思います。

他どうでしょうか。資料がたくさんありますので、今この場でということが難しい部分がありますので、先程説明ありましたように委員の皆様方には後日、意見書という形で、文書で出していただくということもお願いしております。この場で確認しておきたいことはありますか。

【委 員】

資料の138ページ「特に誰から支えられていると感じるか」という部分を見せいただきました。その前の134ページからの部分で、子育てのストレスから子どもにきつくあたってしまうことが多いと思われる保護者の中で、「幼稚園、保育所、地域子育て支援拠点などの職員」に支えられていると思っっている方が多いという部分で、もちろん教育機関ではありますので、お子様の育ちを大事にさせていただいていますが、それ以上に保護者の子育ての悩みやその支えを今後大事にしていけないといけない。満足いただける数字はいただいているのですが、それ以上に「特に誰から支えてほしい」というところでも職員が出てきましたので、内容を共有して今後の目標に努めてまいりたいと思います。

【議 長】

ありがとうございます。

【委 員】

総合通園施設にあるパピースクールといながわ療育園の計画は、ここに盛り込まれるのですか。別でしたか。1期では、確か障がいのあるお子さんの施設利用量については、計画を出してもらっていたと思います。この子ども・子育て会議の子ども・子育て支援法は、全ての子ども達を対象とする支援なので、岸和田市の総合通園施設に通う子ども達にどれぐらいニーズがあるということが、これではくみ取れていないのかもしれませんが、こういう計画に盛り込んでもらって、本当はそういう親の支援がどこかにあるはずで、障がいの方の計画で議論されていると前に言われたように思います。障がいのあるお子様や親御さん達への配慮についても子ども・子育て支援法の中で見ていって、様々な利用量やソフト面の対応も入ってくるという理解で良かったですか。

先程言いました利用量の計画の話で確認しておきたいことは、国で言う計画と岸

和田市が思っている計画と、その地域に必要な利用量がどれだけあるのかという計画の3つを出してもらって、でもここまでしか岸和田市はできないということに多分なると思います。その辺りの利用者の満足度を考慮した計画も一定出してもらわないと、岸和田市の水準が高いのか低いのか読み取れないと思います。そこはきちんと出してもらったほうが良いと思います。より良い制度にしていくための素案なので、岸和田市がどれぐらいの水準にあって、この5年間きちんとやっていければ、待機児童がなくなっていき、皆が利用できる場所になるという計画にして欲しいので、そういう計画案を作って欲しいということを伝えておきたいです。1点目については答えて欲しい。

【事務局】

ご指摘いただいた障がい児のところなのですけれども、前回確かに計画の中に書かせていただいておりますので、次の5月の会議でお話しさせていただきたいと思っております。

【議長】

対象にするのですね。今回のアンケートにその部分が入っているのですか。

【事務局】

アンケートの問12に、児童発達支援に関する質問項目を含めたところがありますので、そのあたりの集計結果を踏まえてどういった形でできるかということ5月に検討していきたいと思っております。

【議長】

今おっしゃった問12の結果は、29、30ページですね。児童発達支援の利用数は前回はなくて、今回が増えている。

【事務局】

児童発達支援の利用希望数をまとめたものが40、41ページのグラフになります。児童発達支援事業所や教育・保育施設による障がいのある児童の支援については、大阪府子ども総合計画や本市障害児福祉計画と整合を取りながら計画への反映を検討します。

【議長】

40、41ページに利用希望があるのでですね。

もう1点の満足度と言いますか、必要度のデータは、どこまで出せるのか難しいと思いますが、ご意見出ていますのでご検討いただきたいと思います。

他はありませんか。

【委員】

157 ページの「充実してほしい子育て支援サービス」の中で「子どもに関する窓口の一本化や利用しやすい案内を充実する」とか「子育てに困ったときの相談体制を充実する」とかあります。市役所の中で子ども関係の行政のやり方等についても検討は考えられるのかということをお尋ねしたい。

【議長】

この点はいかがですか。

【事務局】

難しいご質問をいただいたと思っています。もちろん、市民の方には分かりやすい窓口づくり、一本化というところで、非常に重要な部分という認識は持っております。その一方で、専門性が子どもの窓口では求められるところですので、今後の課題として受け止めていきたいと考えております。

【議長】

他ございませんか。

それでは、他のご意見につきましては書面にてお願いしたいと思います。以上で議題（3）まで終了ということで、よろしいでしょうか。

（委員 異議なし）

【議長】

続きまして、議題（4）について事務局よりお願いします。

（議題（4）について事務局説明）

【議長】

ありがとうございました。今の件で、委員の皆さま方から何かご質問はございますか。

【委員】

認可定員と利用定員を分けられるということは、数がどちらでも良いということになるのであれば、3歳児の定員も変えられるということではないのですか。前回5年前に確かに25名でやりますということで、計画を立てていただいたことは理

解しています。2期目になって利用者が少ないので減らすと言われていると今理解しています。3歳で幼稚園に申し込んで抽選が出てきているということは、その利用者定員を増やせるという理解をしていますが、そういう定員のやり取りはこういう計画の中でやっていけないのですか。例えば、認可定員を30にして利用定員25ということもあり得ると思います。そしたら、25でも30まできたら30名までは抽選なしで入れることになるので、認可定員の方を触ってもらって利用定員は25名という形で計画どおりということではできないのですか。

【事務局】

30名定員という形を取れないことはないのですが、1学級25名定員という部分がありますので、それを超えるとなると新たなクラスを設置して別の部屋を作る、また職員の数は当然プラス必要になってきますので、31年度については25名上限にしています。今後、3歳の量の見込みも当然出てくるとは思いますが、そこでどういう確保ができるのかになってくるとは思います。1期では3歳についてはこれ以上増やさないというところがありますが、2期目でどう考えるかになってくるとは思います。

【議長】

ありがとうございます。よろしいでしょうか。

【委員】

ということは、2期目の素案を作成する時はそういうことも考慮する範疇にあるということで良いのですか。先程も言いましたが、保育所と幼稚園のどちらが3歳の在宅の受け皿になるのかという議論が、利用者ニーズの中でどれだけ3歳が利用したいけど入れないというところのパイがなかなか見えていないです。0・1・2歳は在宅で、4・5歳はほとんど幼稚園なり保育所に行っています。たまたま岸和田市は幼稚園で3歳児を始めたので、利用者が増えてきたところだと思えます。各地域にいるのかどうかという議論と、地域にはいないけれど3歳を受け入れる場所が必要という時に定員と定数も計画の課題として残しておいてもらって、必要があれば増やすということを計画に盛り込んでいけるという理解をしておいて良いのかということです。

【事務局】

現状定員を増やすことは可能という部分もあるのですが、今後行財政改革プランでも0歳から5歳を一体的にどう見ていくのかという考え方も出てきています。先にその議論になるとは思いますが、それを踏まえた上で確保をどうしていくのかということを検討していく必要があると思っています。

【議 長】

ありがとうございます。他よろしいでしょうか。

【委 員】

この利用定員の変更ですが、方向性として岸和田市がどこまで持っておられるのかわからないのですが、4・5歳児の利用定員が減ったので空き教室もできていると思います。最初は19園くらいの予定だったと思いますが、そこで一旦計画が終わってしまったところがあり、そこを今後教育無償化になった時に厳密に言えば満3歳から無償化になるので、そうなれば利用者が増えてくると思います。そこを見越して考えて、3歳児を方向性として増やそうとされているのか。先ほどおっしゃったように、0・1・2歳児も公立で考えていって認定こども園に今後は変更しようとしているのか。そのあたりの計画がないわけではないと思いますが、どうしていいと思うのか。アンケート調査を見ても3歳児で在宅も多いですし、もちろん教育の費用がかかるから待っておられる方もいらっしゃると思います。その辺り方向性があれば、お聞きしたい。

【事務局】

この後で報告する予定だったことが1点ございますので、今のご質問の回答になるかどうかわかりませんが、先にそちらの報告をしたいと思います。

(岸和田市立幼稚園・保育所あり方検討委員会設置について事務局報告)

【議 長】

ありがとうございます。別途会議を起こす、検討されるということです。

【委 員】

そのあり方検討委員会の委員は、どういう構成でなされているのでしょうか。

【事務局】

今のところ、先日の議会でご承認いただいたところですので、これから委員の募集をさせていただきます。今のところはまだはっきりしたことは申し上げられませんが、学識経験者、子育ての有識者の方と、市民の就学前のお子様をお持ちの方、また、一般市民の方ということで公募は考えております。あとの事務については、まだこれから検討して進めていく段階です。

【議 長】

他にございますか。よろしいでしょうか。

【委員】

2019年度から長期休暇中の障がいのある子ども達の学童保育の受入れをなくす方向で言われているという不安の声をお聞きしました。それについて、どうなっているのかお聞きできればと思います。

【事務局】

子育て支援課から回答します。先日、行財政改革プランでご承認をいただきましたけれども、夏期の障がい児の学童での事業をさせていただいておりましたが、それについては放課後等デイサービスの事業所が増加したことにより、民間によるサービスの提供体制が整備されてきたことから、この事業については一定廃止する方向でご承認をいただいたところですので、来年度の夏休みについては、実施しないと決まっております。

【議長】

他に委員の皆様方からないでしょうか。

そうでしたら、本日予定していた議題はこれで終了しました。

これにて、第17回岸和田市子ども・子育て会議を閉会といたします。ありがとうございました。